

会議録	
名称	令和3年度10月 富士見市図書館協議会
開催日時	令和3年10月22日(金) 午前10時00分～11時30分
場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	<p>○図書館協議会委員 出井隆志委員長 小森和雄委員 辻口幸恵委員 野瀬武博委員 野澤節子委員 渡邊知広委員 金高陽子委員 伊垣容子委員</p> <p>○教育委員会生涯学習課 堀副課長 古川主査 石井主任</p> <p>○図書館 長谷川中央館館長 田畑副館長 大里鶴瀬西分館長 下川ふじみ野分館長</p> <p>○指定管理者 (株)図書館流通センター 東日本支社埼玉営業部 服部</p>
欠席者	檜山美智子委員 木村多喜男委員
公開・非公開	公開
傍聴	1名
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 各館事業報告(令和3年6～9月) 中央・鶴瀬西・ふじみ野 3. 議題『コロナ禍の図書館サービスについて』 4. その他(次回開催日程) 5. 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見市立図書館協議会 令和3年度10月定例会次第 ・第4次富士見市立図書館サービス計画 ・第3次富士見市生涯学習推進基本計画(令和3年度～令和7年度) ・富士見の公民館 ・次世代に語り継ぐ戦争体験 ・さざなみだより(8～11月号)

	<ul style="list-style-type: none"> ・とびらしんばん (10月号) ・BOOK ADVENTURES (234・235号) ・つるせにしんばん (7～10月号) ・ぶんちゃんしんばん (7～10月号) ・令和3年6月～9月活動報告 (中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館) ・図書館利用カード デザイン変更のお知らせ
会議録確認	出井委員長
議事内容	
<p>1. 開会 (田畑副館長)</p> <p>2. 各館から事業報告 (令和3年6～9月期)</p> <p><中央図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき報告 <p>6月はまん延防止等重点措置の延長で、すべてのおはなし会・映画会・外部連携その他イベントがすべて中止になった。</p> <p>7月は途中からまん延防止重点措置が解除になり、おはなし会と映画会は、大人・子ども各1回ずつ行うことができた。</p> <p>7月には中央館で初めて【調べる学習おうえん講座】を行った。</p> <p>この企画は図書館振興財団というところが主催しており、こちらに申し込むための講座である。</p> <p>この講座を行ったところ、昨年10件だった応募が今年は46件まで増えた。</p> <p>また7月には『パパママコーナー』の設置をした。お腹の大きい人や、小さい子どもを連れている人など、動くのが難しい人に、子育て情報の本や、富士見市内の公共施設で発行している子育てに関するパンフレットなどを一か所に集めて見てもらおうと設置したものである。子育て世代に好評である。</p> <p>8月には毎年恒例の『こわいおはなし会』を行った。</p> <p>昨年はコロナで行うことができなかった。今年は規模を縮小し、感染対策万全で行った。子どもたちも楽しそうであった。</p> <p>また8月には初めて『ひゃっか王からのちょうせんじょう』というイベントを行った。ポプラ社から事前にゲームに必要なキットが届き、スタッフ数人が事前に勉強して開催した。辞書を引くことが前提のゲームだが、辞書を引けない子が多く苦戦した。結果、一人に一人のスタッフがつくこととなった。今後の取り組み方を検討したい。</p>	

9月には再度緊急事態宣言が出され、報告できるものはない。

図書館利用カードデザイン変更のお知らせに、変更後のデザインを載せた。おもてにふわっぴー、裏に図書館のホームページにつながる2次元コードを載せる予定。

<質疑応答>

委員：【調べる学習】とあるが、難波田城資料館が主催で『社会科展』という催しを毎年行っている。社会科の先生が発案して6年前から始まった。資料館でも調べ物ができるということを、図書館でもアピールして欲しい。

図書館：【調べる学習コンクール】は、図書館振興財団というところが主催で、今回で23回目である。全国で10万点以上の作品が集まる。他の作品展で賞を取ったものは応募できないきまりになっていて、入賞作は、来年1月20日ころ発表予定である。

委員：【パパママコーナー】と電子図書館の利用状況をおしえてほしい。

図書館：電子図書館は7月6日から受付が始まって、今日現在1065人が登録している。今年度から小・中学校にタブレットが配布されたということで、つるせ台小と針ヶ谷小のみなさんに登録していただいた。

【パパママコーナー】は児童コーナーに設置した。

妊娠されている方、小さい子どもをお連れの方に、市内の子育ての情報や、育児や離乳食などに関する本を手にとっていただきたく、一か所に設置した。

委員：電子図書館に登録したが、借りられる資料が少なすぎる。さざなみでタイトルが増えることを知ったので、期待している。

図書館：現在1084タイトルだが、今年度中に3000タイトル増える予定である。今、選書中である。楽しみに待っていて欲しい。

<鶴瀬西分館>

6月は空調工事とシステム更新が重なり、休館期間が長かった。

去年はコロナの影響で夏休みがとても短かった。今年は去年より長く、緊急事態宣言でさらに夏休みが延長になったため、いつもと図書館の利用の仕方が違った。

7月1日から夏休みイベントの受付が始まった。

【読書感想文講座】はコロナの人数制限などもあり、1年生のみ親子講座、それ以外はお子さんのみの参加となった。面談形式など取り入れながら今年も開催できた。

また7月には電子図書館の導入も始まった。つるせ台小学校・鶴瀬小学校・富士見台中学校、また近隣施設へのポスター周知も行った。つるせ台小学校からは登

録の依頼があり、先日終了した。今週、つるせ台小学校から朝読書の時間に実際に使用し始めたという連絡をいただいた。

タブレットの導入により、非来館型の図書館として今後も導入が伸びてゆくと思われる。

添付した写真の現在の鶴瀬西分館の様子を見ていただきたい。

6月から8月は入り口に電子図書館周知用のポスターを貼った。

少しでもいろんな本にアプローチしていただける工夫を取り入れている。

<質疑応答>

委員：西を利用しているが、来館者にアンケートを取っていたと思うが、あのアンケートはその後どうなったのか？

図書館：現在、集計中である。

委員：パペットを作成したようだが、貸出はしているのか。

図書館：貸出はしていないが、おはなし会などで使っている。泣いた子をあやしたら喜んでくれたという活躍もある。

<ふじみ野分館>

7月1日から18日をのぞき、まん延防止等重点措置・緊急事態宣言が発令されていた関係で、ふじみ野分館は開館時間が5時までとなってしまった。

10月からやっと緊急事態宣言が解除になり、午後7時閉館に戻った。

6月はイベントができなかった。

夏休みに開催したイベントの内容について。

毎年好評の【ぬいぐるみおとまりかい】。

科学講座は、原子に焦点をあてて【もしも原子がみえたなら】を行い、ぶんちゃんひろばでも植物の不思議に目を向けた。

社会情勢に目を向けるものとして、シャンティ国際ボランティア会に協賛し、【『絵本を届ける運動』ワークショップ】を行った。参加してくれた子どもたちに、なぜこの運動に参加したのか聞いてみると、一人の男の子は「とにかくいろんな運動に参加したい」と言っていた。もう一人の女の子は、「自分はボランティア活動に参加したい」と言っていた。これを受け止め、子どものいろいろな思いに対応し、こちらもより目的を持って活動しなくてはいけないと改めて感じた。

また、絵本で心を育み、一緒に体を動かすことによって、体も心も元気になろうという【エアロボックス】、読書の指導法でもある【読書のアニマシオン】をぶんちゃんひろばで行った。

夏休みを通してスタンプラリーも行った。

これらの様々な活動を通して、‘図書館に行けばなにかおもしろいことをやっている’と、図書館を身近に感じてもらえたらうれしい。

9月には富士見市の方で、‘縄文海進’というお酒のラベルの投票があったので、日本酒の本の展示を行った。投票数は少なかったが、本はよく借りられていた。

今後も市のイベントに合わせて、展示を行って行きたい。

<質疑応答>

委員：ふじみ野分館のイベントは参加率が非常に高い。何度か繰り返している科学講座や、鶴瀬西の調べる学習など、積み重ねが肝心だ。

中央館の調べる学習は参加者が少ない。増やしていくにはどうしたら良いか検討してほしい。

私の意見としては、パスファインダーを作成して欲しい。

いろいろな企画や展示があるので、来館した方に、読書の道案内的なものがあるとよいと思う。

委員：【調べる学習おうえん講座】【パスファインダー】【11月の広報（富士見）】についての説明をお願いします。

図書館：【調べる学習おうえん講座】は、鶴瀬西分館で積み上げてきたところがあって、今回から中央も行うこととなった。

1回目だったので、周知も含めて弱かった。またコロナ禍でどうしても人数を制限せざるを得なかった。

パスファインダーは、ホームページ上にいくつかあるが、今後は小・中学生向き、研究者向きなど作っていく予定である。

委員：【調べる学習おうえん講座】は、子ども対象だが、学校への働きかけや連携が重要だと思う。

学校図書館と教育委員会できえうまくつながっているとは思えない現状があるからこそ、こういった取り組みには、学校から図書館への働きかけが必要。教育委員会の指導主事の先生たちにも意識を高く持って欲しい。

今の子供たちはテーマに沿った本を1冊読み込むといった時間が家庭や学校では取れないので、そういうときに図書館を利用して欲しいと思う。

図書館の児童向けの行事とうまくつながっていくといいなと思う。

図書館：(学校の)夏休みの課題に、【調べる学習】を入れてもらっている。今後は講座の回数を増やしていきたい。その他のイベントとして、西分館でも『ひゃっか王からのちょうせんじょう』を行う予定である。

また、11月21日にはバリアフリー映画会を行う。目や耳の不自由な方にも映画を楽しんでもらえる内容になっている。

広報（富士見）については、今回、電子図書館の開館と読書週間が重なったため、急遽11月の広報の特集となった。裏表紙は副委員長の檜山さん。「だけじゃない」のテーマで、図書館の取り組みをいろいろと取り上げてもらった。

図書館に来館して、初めて本との出会いがあり、そこで新たな創造が生まれる。今コロナ禍で、‘非来館’が言われているが、私はぜひ図書館に来ていただきたい。

来週から利用の時間制限が無くなるので、ぜひ図書館に足を運んでほしい。

委員：今年は図書館まつりはないのか。

図書館：まつりはないが、11月5日から【子ども読書コンクール】のPOPの展示が始まる。7日には表彰式もあるので、ぜひ見ていただきたい。

委員：広報（富士見）から図書館の活動が発信されて、普段図書館に足を運ばない方にとっても図書館を知るいい機会だと思う。

これにとどまらず、市と連携した形で、発信されると良いのかと思う。今日も協議会のために活動の資料を作ってもらったが、これらを市民の方にも見ていただけると良いと思う。

電子図書館も、3000タイトルの選書基準やどういう資料を選んだのかが市民に伝わると、相互にコミュニケーションがとれてよいと思う。

図書館：小中学生にタブレットが配布されたこともあり、そういう方々の資料を揃えたい。文学作品が弱いので、そこを増やしていきたいとも考えている。

委員：オーディオブックなど入れる予定はないのか。

図書館：今後、郷土資料をデジタル化し、アップする予定である。

郷土資料であれば、音声化しても著作権が発生しないのではないかと考えている。

委員：3000タイトルはどれくらいの割合を考えているのか、

図書館：一般・YA・児童各3割ずつくらいを考えている。

3. 『コロナ禍の図書館サービスについて』の説明

図書館：この議題を考えたのが8月で、当時はイベントなど全くできない状態であった。ただ安全対策を行った上で、何かできるイベントはないか、皆さんに考えていただきたく、この議題にした。

しかし協議会の中止などはさみながら、月日も経ち、コロナも落ち着き、来週から館内の利用時間の制限も無くなる。今後も感染対策は徹底して行い、できなかったイベントを再開していきたい。

委員：図書館は利用者を思っているいろいろなやってくれているが、図書館スタッフは大丈夫か。

図書館：スタッフも会社の方針に則って、感染対策を行っているので大丈夫である。

4. その他（次回開催日程）について

令和4年1月28日（金） 午前10時から。

5. 閉会